

営農情報

第4号 平成25年8月6日発行

(水稲営農情報8月号)

福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

1 生育概況

育苗～移植は順調に行われました。梅雨明けが早く、分げつ期は高温少雨で推移したため、生育は旺盛で、草丈は平年並ですが、茎数は多い傾向です。茎数は確保できているため、今後は稲体の活力を落とさないような管理を心がけて下さい。

2 水管理

- (1) 中干し後は、間断かん水を行います。なお、中干しが不十分な所や葉色が濃く、倒伏の恐れのある所では強めの間断かん水を行ってください。
- (2) その後穂ばらみ期～穂揃期にかけては、最も水分が必要な時期なので水を保ちます。
- (3) 高温障害回避のため、用水が豊富にある場合は、出穂後20日間程度かけ流しを行い、温度を下げましょう。夜温を下げるために、夕方、ほ場の水を入れ替えるのも効果的です。

3 穂肥

穂肥時期の目安と施用量は以下のとおりです。それぞれのは場で幼穂長や葉色を観察し、穂肥時期や量を決定します。

品種	第1回目穂肥施用時		10a当たり施用量(kg)	
	穂肥時期の目安	幼穂長 (mm)	1回目	2回目
元気つくし	8/5頃	5	15	10
ヒノヒカリ	8/11頃	3～5	20	なし
ツクシホマレ	8/13頃	2	25	20

※ 穂肥2回目は、1回目の約1週間後に施用します。

4 カメムシ対策

カメムシ対策には、出穂後の農薬散布による補正防除を行いますが、発生を抑えるためには、畦畔などの草刈りが重要です。イネの出穂14日前までに畦畔などの除草を徹底し、カメムシのすみかを無くしましょう。ただし、イネが出穂してからの除草は、カメムシの水田への飛び込みを助長するので禁物です。

(裏面につづく)

5 病害虫防除

現在、ウンカ類の発生は前年・平年よりも多く、病害虫防除所からトビイロウンカに対する注意報が出されています。田植えが早かったところ（6/20以前）では、注意して下さい。

① 基本防除は、下表のとおり、盆ごろに行います。

品種	防除時期	薬剤	使用量
全品種	8月13	アプロードロムダンモンカットF粉剤DL	4kg/10a
	～20日	アプロードロムダンモンカットエアー	750倍

注)ウンカ等への効果を高めるため、防除作業はほ場に水をためた状態で行います。

② 出穂前～出穂期の補正防除は、以下の通りです。

元気つくしで、葉いもちが見られる場合は注意しましょう。

品 種	防除時期	薬 剤 (全品種とも粉・液いずれか)	使用量
元気つくし	8月16～19日頃	ビームトレモンセレン粉剤DL	4kg/10a
ヒノヒカリ	8月25～31日頃	ブラシンフロアブル	1000倍
ツクシホマレ	8月31日～ 9月5日頃	トレボン乳剤	2000倍
		モンカットフロアブル	1000倍

} または }
} 3剤混用 }

注)液剤を使用する際の散布水量は、10aあたり100リットルです。

農薬の安全使用と飛散防止対策を徹底しましょう!